

支 部 長 換 拶

日本気象学会北海道支部長をお引き受けしてから4年目になりました。昨年度の支部の行った事業の主なものをあげて見ますと、総会、2回の支部研究発表会は例年通りに行われましたが、道外からの研究者による特別気象講演会は平成8年6月のイギリス、マンチェスター大学のSaunders博士による「雷雲内の電荷発生過程の研究の現状」、平成9年2月のドイツ、GKSS研究センターのRaschke教授による「レーダーと航空機による雲内粒子の観測」がありました。第14回夏季大学講座「新しい気象」では、「雪崩」、「巨大彗星がやってくる」といった、雪氷学、天文学の話題も含めました。また、地方気象講演会は、滝川市の全面的なバックアップをいただいて市役所大会議室で「降雪のしくみ」、「グライダーと気象」、「オゾン層破壊」、「北竜町地震」といった地元にも直接関心のある話題で行われ、152名の参加者がありました。「細水」は予定どおり第42号が刊行され、内容の充実した支部活動ができたと思っております。



今年はずすでにご承知の通り、10月7～9日に全国（秋季）大会が北大の4会場を使って行われる予定です。昨年末に発足した実行準備委員会を今年度から実行委員会とし、準備に専念しているところです。そのため、地方気象講演会はとり止め、支部研究発表会も1回だけとなりますが、その他の事業は例年通りを計画しております。

全国大会は、5年に1回の支部の持ち廻りですので、この機会に是非多くの会員の皆様の参加を希望すると同時に、積極的なご支援をお願いいたします。

日本気象学会北海道支部
支部長 菊地 勝 弘
(北海道大学大学院理学研究科)